



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 1 回目研修)

私の授業実践 ⑨ ～玉名市立玉名町小学校 猿渡 明香 先生～

6 年 単元名「Let's go to Italy.」

○単元を通した学習課題

お互いの行きたい国についてよく知るために、ツアーコンダクターになっておすすめの国や地域を紹介し合おう。

○本時の目標 (7/7)

お互いの行きたい国について知ったり、自分の行きたい国を選んだりするために、おすすめの国について紹介し合うことができる。

活動の形態を工夫し、言語活動の充実を図る

今回の授業で、猿渡先生は子供たちが目的意識を持ってたくさんの友達とやり取りができるようにするために、言語活動の形態を工夫されました。

やり取りの活動では、自由に子供たちが教室を歩き回り、出会った友達と 1 対 1 でコミュニケーションを図る活動がよく行われます。しかし、今回の活動では、2 人 1 組でペアを組み、別のペアの友達に各自の行きたい国を紹介し合うという形態をとっていました。

このような形態で言語活動を行うことで、猿渡先生は、次のような効果をねらっておられました。1 つ目は、2 人 1 組で活動することにより、ペアで助け合いながら活動できるということです。6 年生の外国語の授業では、ある程度まとまった内容について紹介したり、友達からの様々な質問に答えたりすることが徐々に増えてくるため、十分に英語に慣れ親しませる活動を行っていても、発話につまずいてしまうことがあります。本時の活動においても、行きたい国を紹介したり聞き手からの質問に答えたりする際、1 人では解決できない場面でペアの友達の助けを借りながら会話を続けようとする様子が見られました。

2 つ目は、話す必然性や聞く必然性を持たせるということです。聞き手側は、相手ペアのそれぞれの行きたい国の紹介を聞いた後、「I want to go to Australia. I like Koalas.」のように、どちらの国に行きたいかを選択し、その理由も含めて伝える必要がありました。そのため、話し手側は自分の国を選んでもらうために熱心に紹介し、聞き手側はどちらの国が魅力的かを考えながら紹介の内容を聞いたり質問をしたりと互いに思考を働かせながら活動を進めていました。

また、この活動を 1 回限りで終わらず、ペアを替えながら何度も繰り返し続けることで、ペアが替わるごとに、相手意識や目的意識を持ちながらコミュニケーションを図ることにもつながりました。その結果、たくさんの友達と十分な時間、意欲を持続しながらコミュニケーションを図ることができていました。

このように、言語活動を行う際には、目の前の子供の実態や指導者のねらいに応じて、活動形態を工夫することが大変重要です。



〈ボランティアの子供とともに
デモンストレーション〉



〈自作のポスターを示して紹介〉